



ソマノベース

土砂災害による人的被害をゼロにする



1.ソマノベースとは

ソマノベース

||

林業界と他業界の企業・個人を繋ぐ会社

1.ソマノベースとは

ソマノベース

VISION

「土砂災害による人的被害をゼロにする」

MISSION

「林業を通して土砂災害リスクの低い山林を増やす」



高校時代、紀伊半島大水害にて被災。

2.代表紹介（経歴）

(株)中川で勤務開始
造林を行う林業会社で働く
(2019年～2022年)



ソマノベース創業
個人事業として開始
(2021年～法人化)



林業の現場視察
災害対策としての林業を
学ぶため様々な森林産業の
現場を視察



(株)エンリッショインターン
カフェ新店舗10店舗の立ち上げ
新人研修制度設計
SV・店舗運営等



地域住民へヒアリング
地元の主婦・政治家・先生
等に地域について教わる



紀伊半島大水害
被災・後輩を亡くす



2011 2012 2013 2014 2015 2016 2017 2018 2019 2020 2021 2022

災害・日本文化について海外派遣
【ライオンズクラブ】親善派遣
【外務省】KAKEHASHI PJ
【熊野川翔学米】海外一人旅



同志社大商学部入学
各地方を巡る
学生団体設立（地方創生関係@和歌山）



大手企業SCR活動ビジコンの運営
学生事務局代表として
全国約60名の学生・
企業社員とともに
社会起業家のビジコン運営



ソーシャルマーケティングゼミ
大学ではマーケティングで
行動変容を促すことを目的とした
学問を学ぶ



ボーダレス・ジャパン入社
M&Aしたばかりのアパレル事業を
新卒2名で回す



土砂災害関係NPO勤務
防災教育や
住民説明会等
砂防関係



ジャパンチャレンジャーPJ
地方創生ビジコン
事務局



3.課題

災害危険区域の数

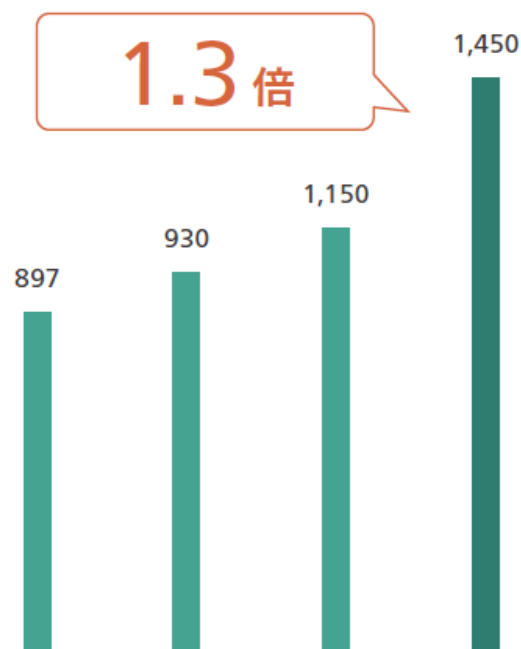
市町村の **92%** が土砂災害危険区域保有

※1606/1742市町村

【参照元】平成29年版 防災白書|附属資料22
市町村別の土砂災害危険箇所の状況

3.課題

発生件数



昭57-平3

平4-13

平14-23

平24-令3

令和2年の水害被害(土砂災害・洪水等)は、

6,600 億円

災害が多かった令和1年は、

2兆超

土砂災害対策に関する国家予算は、

1,443 億円 (令和3)

【参照元】国土交通省 報道発表資料(令和4年8月31日)

https://www.mlit.go.jp/report/press/mizukokudo03_hh_001133.html

3.課題

「林業を通して土砂災害リスクの低い山林を増やす」

深層崩壊



表層崩壊



土砂災害発生には**地質・雨量**等が大きく関与する。
その中でも**林業**が関与する発生リスクを抑える。

3.課題

林業と土砂災害

管理放棄



間伐や測量がされていない山林も増加

植栽放棄

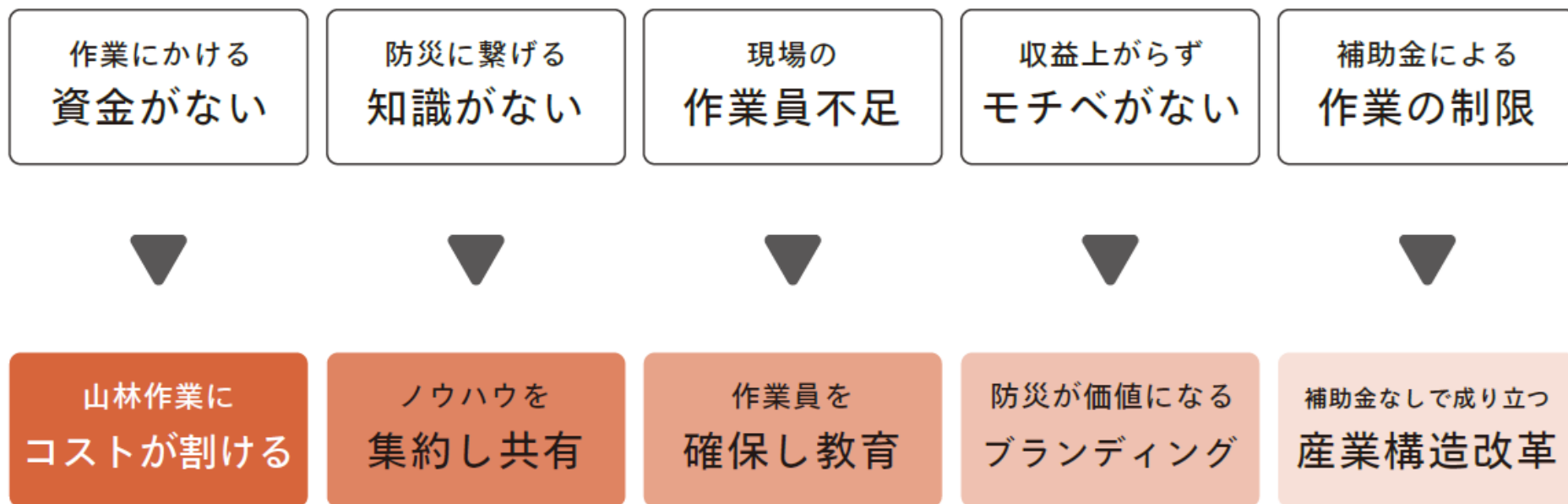


皆伐地のうち約6割は植林されていない

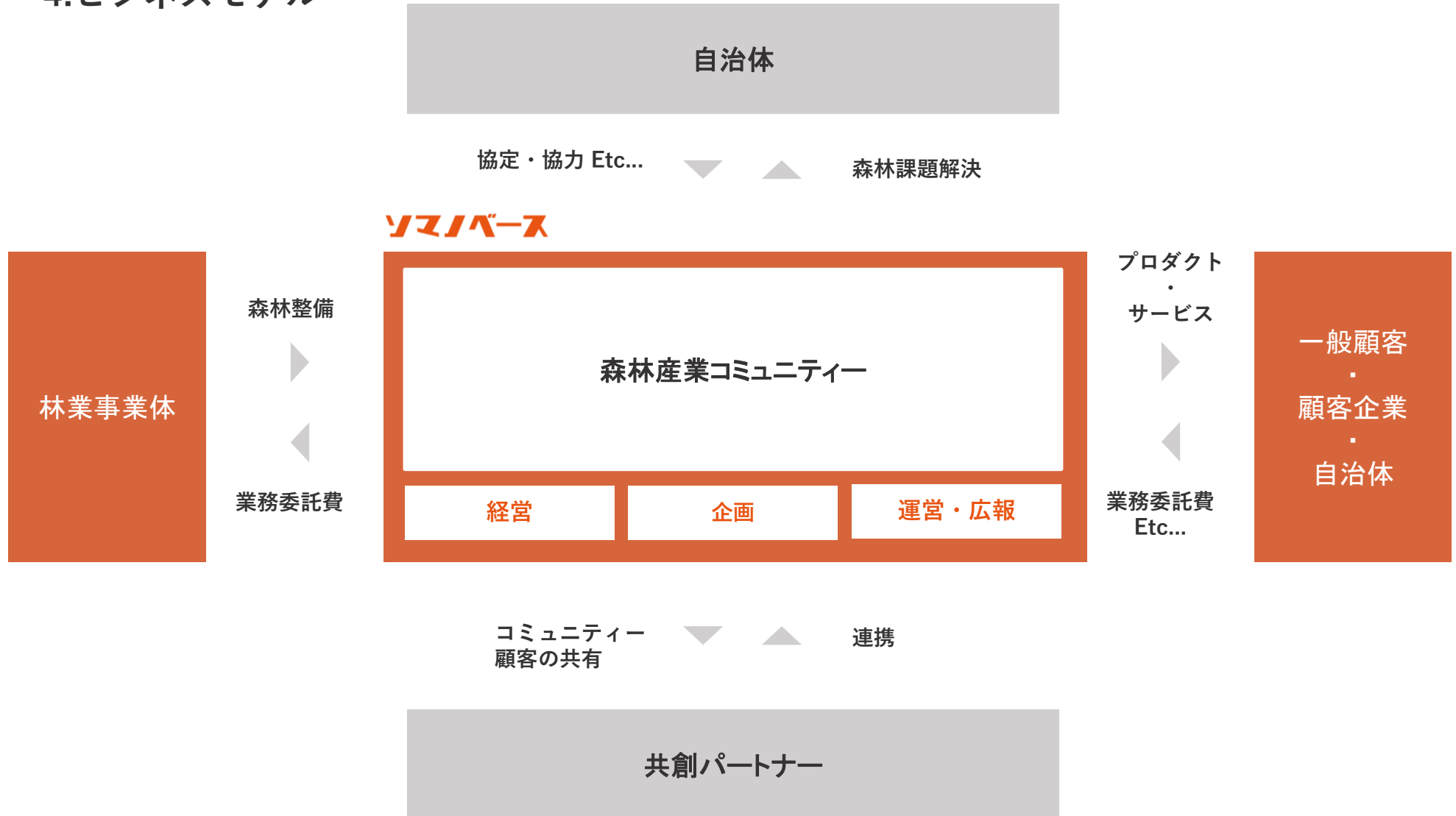
管理不足の山林は土壌が緩み、土砂災害リスクの高い山林に

3.課題

原因と解決策



4. ビジネスモデル



4. ビジネスモデル

林業界と他業界、それぞれを繋ぐ通訳者として事業を行い、
社会を巻き込みながら“防災”“森林保全”を進めていくのがソマノベースです。

林 業

×

中 間 地 点

×

他 業 界



業界交流



資源調査



戻り苗



戻り苗



セミナー



教育事業



若手林業家支援



デジタル支援



視察・ツアー



カーボンオフセット



ワークショップ



プロダクト開発

5.サービス MODRINAE事業

MODRINAE

自分たちが育てた苗木を山に戻せる新しい観葉植物

木を育てて、
未来に残す
新しい観葉植物。
MODRINAE



WOOD CHANGE
AWARD 2020



JAPAN WOOD DESIGN
AWARD 2022

戻り苗の未来

枯れて終わりの観葉植物



あなたの木が残り続ける

進まない森づくり



豊かな森が増えていく



育苗セットが届き、どんぐりから2年間育てる。育った苗木は和歌山の山林に戻し植林するという循環型の観葉植物キット。

戻り苗の仕組み

どんぐりを育て始める



2年間で立派な苗木に



苗木を山に返す



参加者だけができることも



育てて、植えて、伐って、使う。
かつて森と人の間に流れていた、
循環を再提案していきます。



苗木と鉢のサイズについて

苗木の高さ
15~30cm

木鉢の高さ
18cm

木鉢の幅
14cm



水を毎日あげることで愛着が湧き、2年間の育苗期間で顧客との濃いコミュニケーションがとれる。

戻り苗の育て方



室内の明るい場所に、
戻り苗を設置します。



どんぐりの時は表面が
乾かない程度に水を。



2年間育ったら、
指定の方法で苗木を返送。



芽生えてからは、
2~3日に一度は水を。

直射日光を避けた明るい場所で育ててください。
詳しくは育て方ページをご覧ください。

育苗で困ったら ...



参加者限定公式 LINE に
ご招待しています。

苗木の調子や困り事を
相談できます。



どんぐり補償付き。

稀に発芽しなくても、
枯れても安心。



顧客向けコンテンツ



Note 記事投稿



イベントやLIVE配信



戻り苗マガジン

育った苗木は田辺市内に植林。最初は0.06haから。管理は林業事業体と連携。

2021年にスタートした戻り苗。
たくさんの方に愛情を持って育てていただいた苗木が、
今年の冬、初めて森に戻っていきます。

森と人の生を混ぜ合わせ、
互いに豊かな生き方ができる未来を願って
戻り苗はスタートしました。

皆さんと私たちで初めて取り組む
森づくりの場所が決定しました。



MODRINAE

今年1月に伐採されたばかりのこの場所。

1ヘクタールにも満たないまだ小さな範囲ですが、
山主さんの思いやビジョンにも共感し、

皆さんの想いをこの場所に残そうと決めました。

「戻り苗の森」と名付けて、
苗木が旅立つ今年の冬に向けて、

「戻り苗の森」の生態系や、龍神村地域の歴史文化、
植林が行えるようになるまでの
準備の様子などをお伝えしていきます。

いつも苗木を大切に育てていただいている皆さん、
本当にありがとうございます。

NOTE 「戻り苗の森」

MODRINAE

旧 龍 神 村

苗木たちが戻る場所は、和歌山県の中央部に位置し、
古くから林業が盛んであった旧龍神村（りゅうじんむら）。

MODRINAE



MODRINAE

地域住民・観光客が熊野古道でどんぐり拾いをするPJ「たびたび」

多様な願いが交差する、どんぐりが紡ぐ森づくり。

どんぐりを拾って、未来の森づくりを街全体で行うプロジェクト

このプロジェクトはどんぐり拾いをきっかけに森林への関心を持つこと、自然の美観を得ることももちろん、過去と現在、市内と市外、近隣町と世代が積極的に交流するきっかけとなる事業を目指しています。

熊野どんぐりプロジェクト

た び た び
三 度

プロジェクトの名前に込めた未来像

何度も、この土地で

どんぐり拾いを始めに、その先の森林、文化に興味を持ったり、環境に魅了されまた訪れたいと思ったり。ずっとこの地域に関わり続けてほしい。

さまざまな人が交差する

このプロジェクトが、地域に関わる人々の横「渡り」となり、どんぐりは地域を超えて渡っていく。人と想いを繋ぎ続けていきたい。

大切にされてきた3

「三」は、熊野信仰において大切な数字。熊野三山、八咫鳥の足など様々なところで使用され、先人の想いがそこにあります。過去から未来に渡す、ベースとなる考え方。



熊野古道沿いにどんぐりBOXを設置。2万個のどんぐりが集まる。

どんぐりBOXの設置



住民がどんぐりを投入



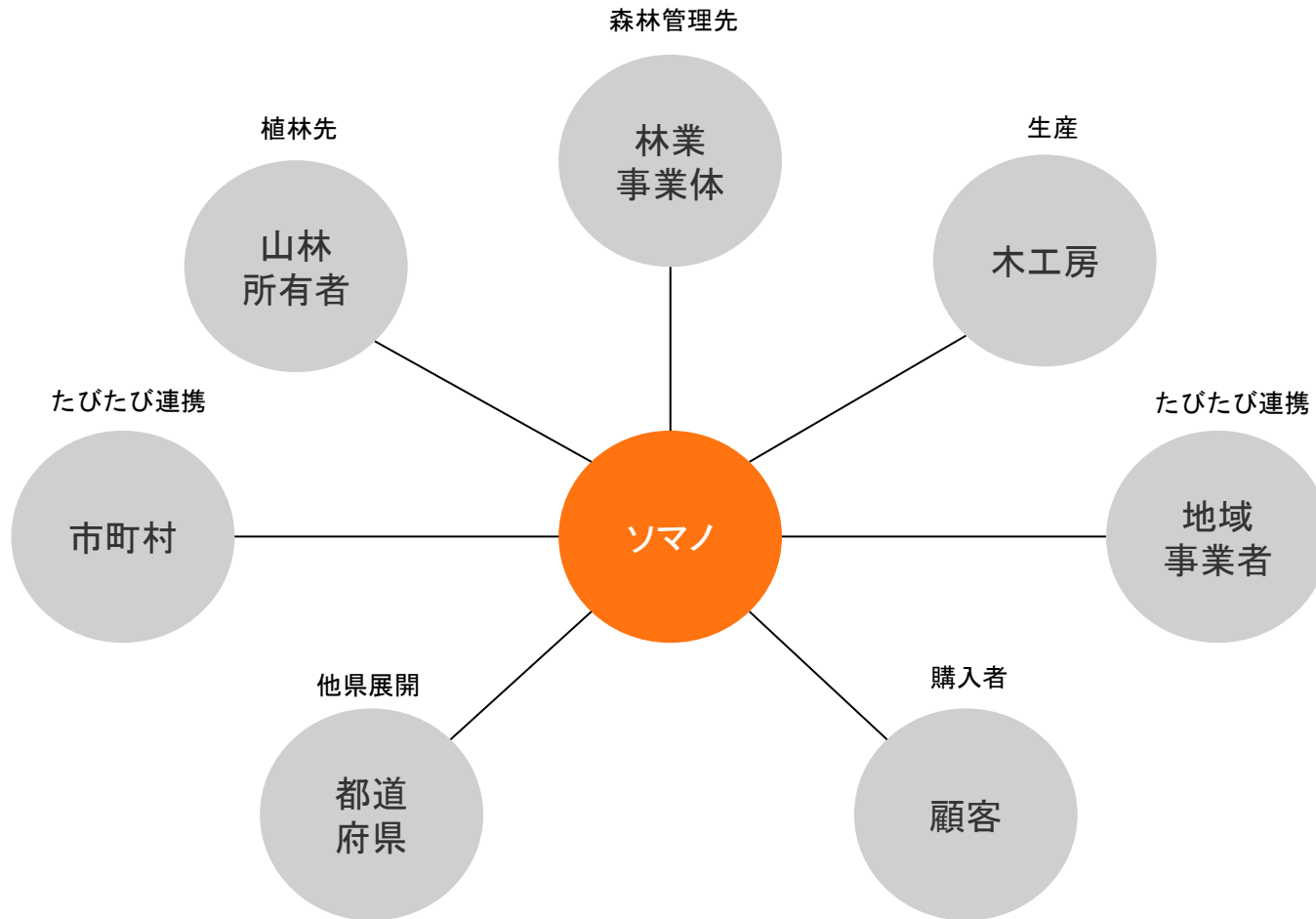
ツアーなどで県外の人も参加



苗木の育成を就労支援施設のみなさんと実施



戻り苗のステークホルダー



5.サービス MODRINAE for BUSINESS事業

MODRINAE FOR BUSINESS 植林用苗木をオフィスで育てるプロダクト。



ソマノベースは森づくりを、
「やらなければいけないこと」から、「やりたいこと」へ変えていきます。

SDGs や社会貢献活動に求める意見



社内外にもっと事業をアピールしたい。

独自性のある事業がしたい。

学ぶ機会を得たい。

社内の環境の改善に努めたい。



現場の森林保全活動に対する意見



単発で淡白な取り組みになってしまう。

社内や社外を巻き込めない。

効果が見えない。

林業家とうまく連携できない。

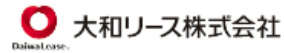
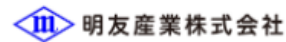


一過性でなく社内の活動が社外に繋がり、線となる取組みを全面サポート



PARTNER

導入企業様



およそ1年ほどで業界・業種問わず MODRINAEパートナーに。
戻り苗の本数は、計1500本ほど

コンステックホールディングス株式会社様 ー森林保全活動を社員とともに 継続的に取り組むためにー

会社情報

「コンステックホールディングス株式会社（大阪府）」…計6社で構成する建築・土木の総合エンジニアリング企業。コンクリート建造物の劣化調査や耐震診断、補修補強の設計・工事などコンクリート建造物の長寿命化に取り組む。

【会社HP】 <https://www.cons-hd.co.jp/>

導入目的

- ・海外への植林活動の支援を行っていたが、もっと自分たちでできることをしたい。
- ・今まで様々なイベントを行ってきたが、単発で終わり継続性がなかったこともあり、気軽に取り組みながら、SDGsに対する意識を社員一人一人に浸透させていきたい。

導入内容

MODRINAE 木鉢型 100個：2021年11月開始

導入後の感想

まず、過去のイベント参加に比べ、素人でも始めやすい気軽さがある。社員それぞれが愛情をもって育ててくれており、いつしかみんなの癒しになっている。支店ごとに戻り苗担当者がおり、グループチャットやメールを通じて、コミュニケーションをとれるきっかけにもなっている。今後は、ラダーシェルフ型を導入したり、植林する際のツアーやワークショップを実施しながら、継続的に取り組んでいきたい。



戻り苗の森プロジェクト

ソマノベース

苗木を育てることから始める森林保全

戻り苗の森プロジェクト

市民の苗づくりに参加しませんか？

木の植えられていない山をゼロにしよう。

ずっとずっとこの先も、私たちはこの土地の上で生きていくのに、環境への配慮が徹底にされてしまうのはなんだろう。
戻り苗の森PIでは、一過性に終わらない新しい環境保全活動を実施します。

MODRINAE

MODRINAE PARTNER

戻り苗の森プロジェクト参加企業様



株式会社 エンビエナブル・サステナブル



日経ホールディングス株式会社



みんなで取り組む、1万社の森づくり。

日本の森林が抱えるさまざまな問題。
企業としても取り組みたいけど、参入のハードルが高いのも事実。
それでも、「関わりたい」という思いを無駄にしたいくない。
森と社会を繋ぐソマノベースが架け橋になります。

戻り苗の森プロジェクトとは



自分で採集用苗木を育て、森に返せる戻り苗

森づくりの関与人口を増やすため、県産も地域も樹種も違う様々な企業様に1社1本の戻り苗を育てる活動にご参加いただき、みんなで一つの森を保全していく活動。

戻り苗の森プロジェクト

Copyright 2022 SOMANOBASE INC.

セミナーの開催



Somano College

ソマノベース

林業界と他業界の 新たな共創を育てる

知ることには時間とお金がかかってきた、林業の全体像を一挙に掴む。

2023 5.26 日 ONLINE
10:00-16:00

The poster features a geometric background with shades of green and yellow. On the right side, there is a photograph of three people: a man in a blue shirt with his arms crossed, a woman in a white shirt speaking into a microphone, and another man in a black t-shirt with 'KIDORI' written on it. The text is arranged on the left side, with the title in large, bold characters. The date and time are prominently displayed at the bottom left.

5月 26 ソマノカレッジ __ 林業界と他業界の新たな共創を育てる
(金) 10:00 | オンライン | By ソマノカレッジ

Case study

01

熊野自然学校概要書



田辺市の小学校向けの教育プログラム

「熊野自然学校」のカリキュラム・教材を作成。

熊野の「今の森」と「100年前の森」を絵本に。

こどもたちが地域の森に関わっていく未来をつくるため
自分たちで森への関わりを考えるワークショップを作成。

座学授業を受けた後は、フィールドワークとして

地元の製材所見学や山での植林を行った。

Case study

02 放課後デイスクールHEARTY様

京都市の放課後デイスクールHEARTY様にて

MODRINAEを活用した木育を開始。

保護者説明会を実施し、有志で子ども達が参加。

1週間、森林教育weekを設定し、森林に関する読み聞かせやどんぐりを見分ける遊びなどを行った。この秋からMODRINAEに参加が決定。



Case study

03 同志社大学と連携した林業ゲームワークショップ

同志社大学商学部の子学生達に森林に関する勉強会を実施。

林業家による講義や、林業に関わるワークショップ実施、和歌山での植林体験などを実施し、その後林業ゲームを開発。

大和ハウス工業の産官学共創プロジェクト「コトクリエ」や同志社中学、サイエンスアゴラなどで林業ゲームを使用したワークショップを実施。

その後、子ども達の意識の変容など効果検証を行った。



Case study

04 防災ラーニングジャーニー・防災国体

女性経営者とともに災害現場や森林の様子をめぐる体験ツアー。

過去10社ほどの経営者が参加。



Case study

05 高校との連携

紀州備長炭を使ったコーヒーの焙煎と販売を行う日高中津高校の皆さんと
森林保全活動を開始。

森林×コーヒー販売×ITで授業を行っています。

